

第 39 回原子力安全専門委員会定例会
(結果概要)

原子力安全対策課

日 時：平成26年 3 月25日（火）14時00分～15時00分

場 所：福井県庁10階 1002会議室

出席者：

専門委員：中川委員長、三島委員、田島委員、飯井委員、大堀委員

県：（原子力環境監視センター）田賀総括研究員

（原子力安全対策課）岩永企画幹 他

議 題：

1. 原子力発電所周辺の環境放射能調査報告について
 - ・平成 25 年度（第 3 四半期分報告）
 - ・平成 26 年度（調査計画）
- 2 発電所の運転および建設状況について
（平成 25 年 12 月～平成 26 年 2 月）

結果概要：

議題 1（原子力発電所周辺の環境放射能調査報告）について事務局より概要を説明。

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定結果についてはいずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 今期間も、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響と考えられるセシウム 134 および福島第一原子力発電所事故や核実験フォールアウト等の影響によるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・ 大気中水分、雨水および海水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。

委員からは以下のような質問があった。

Q.

- ・（資料 No. 1-3） 2 ページ目の β / α の放射能濃度比について、統計的なバラツキによるものというのは、 α が少ない値となったために β / α が大きな数字となるときがあるということか。

A.

- ・ そうである。降雨などの影響による場合もあるが、たまに α が少ない値となった影響で β / α の値が大きな数字となることがある。そのような場合には、その時間帯に放射能の異常が無いかどうかを確認している。

Q.

- ・ 環境放射能の測定で、各機関が同一時期に同一地点で重複して行っているところは相互に分担するということだが、今まで重複していた地点での測定は、時間毎に違う値だったのか。それともほぼ同じような値だったのか。

A.

- ・ ほぼ同じであった。もともとクロスチェックという意味合いで重複して調査を行っていたのだろうと思う。最近では、技術的にもほぼ同等の値であるし、測定結果についてもあまり差が無い。

Q.

- ・ 重複していた地点については、どれぐらいの距離が離れていたのか。

A.

- ・ 地区毎によって異なっており、今すぐに答えることができない。
- ・ また、同じ土壌で行っても資料差があるために完全に同じ結果であるというのは難しいが、過去数年の変動幅の範囲内という考え方でいえば、ほぼ同レベルの結果を得ている。

議題 2（発電所の運転および建設状況）について事務局より概要を説明。委員からは主なコメントは無かった。